

シリーズ クルマと今を生きる

第1章 私たちと車の未来 Vol.4

クルマのある暮らしは人生観そのものを変える——。若者がクルマを所有しない時代、若者がクルマに魅力を感じない時代、そう言われる昨今においてなお、クルマに魅せられ、夢を抱き、心底楽しんでいる若いクルマ愛好家が必ずいる。その姿と生の声を辿りながら、次世代へ引き継がれているクルマ愛をシリーズで検証。自動車免許取得を目指している方々に夢や希望をうかがう。

取材・写真/青柳 健司(フォトライター)

【取材協力】 鉄工団地自動車学園

札幌市西区発寒16条東13丁目1-10 ☎011-663-1414
社長:横井 一実 学校長:板垣 雅弘

平日7:00~21:50(土曜と自動二輪は20:50まで)、日祝9:00~16:50の超ロングラン教習を実施。自分にあったスケジュールが組めるため、学生はもちろん社会人の利用も多い。託児室(有資格者保母2名在籍)も完備(平日9:00~16:00、日・祝休)している。



アルマン芽生さん

札幌市在住・22歳・学生

札幌モーターショーガールの大役を前に「クルマのことを勉強する度に、私なりに新しい魅力を発見しています」。



堀岡拓郎さん

札幌市在住・18歳・学生

「同世代の男性でも、クルマには全く興味がないという人も確かに居ます。でも、クルマの魅力は昔から変わっていないと思います」。



メンテナンスは自分で

やがて訪れる春を、新社会人として迎えようとしている堀岡拓郎さんは、内定先の要望に応えるべく冬休みを利用して自動車免許取得に励む日々を過ごしていた。「自分自身、幼い頃からクルマが大好きで、18歳になったらすぐに免許を取りたいと考えていました。いろいろな意味でタイミングが良かったです」と微笑む。

堀岡さんのクルマ好きは、父親譲り。「親父が自分でクルマのメンテナンスをするので、ずっとその姿を見て育ちました。それを手伝うのが楽しくて、エンジンの仕組みやパーツの名称なども自然に覚えていったんです(笑)という。やがて、電気関連業の技術者である父親にならうと、堀岡さんは類似工業高等学校の電気科へ進学。内定先も電気関連会社だったので、理数系男子の家系をしっかりと受け継いだ。もちろん愛車所有の腕には「ぜひ自分で整備したい」といい、またその日が今から待ち遠しくもあるようだ。

堀岡さんが描く理想のクルマ像はスバル、日産GT-R。小さな頃は「1億3千万円で遊んでいたぞで、特に「力強いスタイリングに憧れます」と語気も強まる。だから目標は「いつかGT-Rを手に入れたらいい」とも、まずは仕事をがんばりたいです」とニコニコ。そんな堀岡さんに「クルマとは、」とまだ自分で所有したことがないので想像しかできませんが、人生を大きく変えてくれるもの、だと思えます」といい、堀岡さんの眼差しは、そんな期待感で輝いていた。

憧れのクルマ

市内某大学に在籍するアルマン芽生さんは、父親がアメリカ人のハーフ。写真と実際の通りの美貌の持ち主で、学業と平行してモデル活動にも励んでいる。そして何を隠そう「札幌モーターショー2014」(2月14日~16日)で案内役を務める、札幌モーターショーガールの2名選出に抜擢された逸材なのである。鉄工団地自動車学園を卒業後、自動車免許はすでに取得済みで、もっか両親所有のクルマを借りて、ドライブ経験を積み重ねている真っ最中のようだ。

免許取得のきっかけは「おじいちゃんかまだ現役でバリバリ仕事をしていて、私がその送り迎えをすることになりました。幼い頃からおじいちゃんが大好きな私は、少しでも役に立てるならと思って、喜んで免許を取りました」と笑顔が弾ける。その健気な思いに報いるためか、教習に要する費用は祖父が出してくれたそうである。「そんな風について私を様々な形でサポートしてくれるおじいちゃんに、これからはできるだけ恩返ししたい」と思っています」というアルマンさん。運転手役は、今出来る恩返しのひとつということらしい。

その一方で、将来愛車にしたいクルマを尋ねると「アウディのオープンカーがいいですね。ある映画で登場するのを見て以来、かわいいういスタイリングにひかれています」と、女性らしい思いも語ってくれた。

そんなアルマンさんとクルマの魅力とは「一緒に乗った人たちと移動の間にする会話は、普段とは違う何か特別なものがあります。その感じが、私はとても好きなんです」と微笑んでいた。

取材を終えて...

クルマは人に夢を運び、そして本人ばかりでなく、家族や友人の暮らしをも一層豊かにしてくれる。今回登場いただいたお二人のうち、堀岡さんは希望のまっただ中にあり、一方のアルマンさんはすでに恩恵に授かっていた。奇しくもお二人ともに、やがて人生のひとつの節目を迎えようとしている時期にあり、それぞれ今を支える力のひとつとなつていくように感じられた。